

# 共に歩む、豊かな渋川を



渋川市長  
高木 勉

明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、さまざまなイベントで市民の皆さまの笑顔に触れ、街に活気が戻っていることを実感した年でした。

また、渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館が完成し、人と芸術、文化、地域とのつながりを広げる施設として、市民の皆さまによるさまざまな作品の展示やイベントの開催を通して、渋川市のブランディングの象徴、市民の皆さまが心豊かになる拠点になってほしいと願います。

今年も、自治会の皆さまに整備を進めていただいております避難タイムラインが、全地区で完成します。実効性ある避難体制の確保

のため、地域の皆さまをはじめ関係者の皆さまと共に地域の命を守る体制をつくりたいです。また、「共生社会実現のまち」として、

渋川市は、「育都」としてのまちづくりを推進するとともに、女性活躍や男女共同参画社会を実現するため、各種ワークショップや研修などの取り組みを進め、意識の向上に努めてまいります。

今年も、市民の皆さまが、意欲的に個性と能力が発揮でき幸せになれる社会を、市民の皆さまと共に築いてまいります。

本年が市民の皆さまにとって、実り多い年となるよう心から願いを込めて、新年のごあいさつといたします。

# 今日より明日へ 希望の渋川を



渋川市議会議員  
安力川 信之

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年1月1日に発災した能登半島地震では、多くの尊い命が奪われ、今なお避難を余儀なくされている方もたくさんいます。不安の年が始まり一年が経過しました。一方で、世界ではいまだ対立と戦乱が続いています。この瞬間にも不幸に苦しめられている多くの人々がいます。

私は、昨年から全国市議会議員会連合会の「社会的な孤独・孤立問題に関する特別委員会」の委員に選任され、先進地の現地調査や意見交換を重ねてきました。渋川市ではどのように展

開できるかを思いながら取り組んできました。学齢期での学校への行きにくさ、青年期での社会の中での生きにくさ、高齢期での単身世帯での孤独感など、世代を超えての社会問題となっています。

子ども食堂の支援、孤立感のある若者への支援、高齢者のいきいきサロンなど、支援の輪が少しずつ広がっています。

市議会として、市政運営のチェックはもとより、こうした社会問題に対しても積極的に政策提案を重ねてまいります。市民の小さな声にしっかり耳を傾け、希望の渋川を実現すべく、今日より明日を目指して、今年も全力で挑戦してまいります。



## 今年は「巳年」

「巳」は、植物が最大限まで成長した状態を意味します。また、動物に当てはめると「ヘビ」で、十二支の第6番目に数えられます。

ヘビは、悪い印象を持つ人がいる一方で、古くから豊作や金運をもたらす神様として信仰され、縁起のいい神聖な動物だとも考えられています。「巳」は、脱皮することで強く成長するヘビのイメージから、「復活」と「再生」を意味するともされ、たくましい生命力や不老長寿の象徴ともされています。

この他「巳」には、胎児の形を表すという説もあり、「始まり」や「起り」、「子孫繁栄」などの意味を持つと

もされているようです。

そのため巳年は、「植物に種子がで始める時期」、「新たな生命が誕生する時期」など、新しいことが始まる年になるといわれています。

2025年の干支(十干と十二支)は「乙巳」です。「乙」には、草木が育ち、しなやかに広がっていくという意味合いがあります。「乙」が、調和を保ちながら目標に向かって進んでいく力を表しているため、「乙巳」は、積み重ねてきたものが柔軟に発展し、実を結び始める年になるとされています。「脱皮するヘビのように進化し続けながら、周囲に柔軟に適応し、重ねた努力により物事が安定する」。そんな年になることを願います。

